

学生のアクティビティ



#あつまれお茶大!

Ochat

Ochatとは、ニューノーマルな大学生活を送るお茶大生・教職員が自由に情報を共有する新しい手段として立ち上げられた、お茶大関係者限定のグループチャットです。「デジタル概論」という学部生を対象とした科目で「大学への提言」というグループ課題発表が企画され、あるチームから「**お茶大生限定のグループチャットでお茶大生が自由に情報を共有すれば、大学生活がもっと充実します**」という提案があったことから、実際に学生を中心とした有志で準備しました。

今回は提言を行ったチームに所属していた大野史織さん(生活科学部人間生活学科生活社会科学講座4年)、山口柚香さん(生活科学部人間生活学科生活文化化学講座4年)にお話を伺いました。

Ochatを提案したきっかけを教えてください。



山口さん

お茶大生のすべてのコミュニケーションを円滑にしたいという思いで提案しました。コロナ禍以前でも困難だった先生・先輩との縦のつながり、学部を越えた同期との横のつながりを作り、どんな分野・ジャンルでも対等に話し合えるコミュニケーションの場を目指しました。



大野さん

オンライン授業が中心になったことで授業前後の雑談がなくなりました。本来であればそのちょっとした時間でコミュニティができたり、授業の質問ができたりしたけど、それが失われたことで孤独を感じたり、大学生活の満足度が下がったりしているという学生の思いがありました。授業外のところでも、つながれる、雑談できる。そこから友達になれるようなコミュニティを作れたらなという思いがあって、Ochatの着想を得ました。

発表したアイデアの内容を教えてください。



大野さん

お茶大の関係者限定、学生・教職員すべてが対象のオンラインコミュニティサービスをコンセプトとしました。お茶大関係者限定なので、個人的で有益な情報交換ができるし、まだ知り合いがいない新入生でも安心して参加することができます。



山口さん

実現するにあたってはSlack(※ビジネス向けチャットツール)を利用していますが、提案段階ではタイムライン、掲示板、コミュニティ、トーク、プロフィールなどの機能を備えた専用のアプリケーションを考えていました。独自のアプリケーションであることのメリットは、デザイン性を追求できること、お茶大生にあったアップデートの余地があることです。ちなみに、デザイン案は私が作ったのですが、お茶大生専用のツールなのでかわいらしさを出しました。

●各画面イメージ図



提案時のアプリケーション画面デザイン

ご自身のOchatの利用状況や、 周囲の反応はどのようなものがありましたか？



山口さん

私は見るだけですが、TwitterでOchatの話題が出ているのを見かけたことがあります。1、2年生は対面での交流が少ない分、SNSでの交流が盛んで、Ochatを介して話題が生まれているのは嬉しかったです。



大野さん

授業ごとにチャンネルを作ってくれる先生もいて、先生とのコミュニケーションがとりやすくなりました。また、**#授業**のチャンネルで「〇〇の授業が始まらないけれどあつてる？」と質問して誰かが回答する、というやりとりも見かけました。3、4年生でも、見るだけの人でも重宝しているのかなと思います。

今後、どんな風にOchatを活用していった 欲しいか、期待することを教えてください。



大野さん

Ochatで会話のきっかけを拾って、個人間のやりとりをどんどん増やしていったらいいです。現状、個人がチャンネルを作るとか、DMを送るという行為は心理的ハードルを感じている人が多いように思います。ハードルを感じる原因は、他者に踏み込もうとするお茶大生が少ないこと、Ochatがフォーマル化しすぎていることかなと思っていて、前者はお茶大生ひとりひとりに一歩踏み出す勇気を持ってもらおうとして、後者のフォーマルさはなくしていきたいと思っています。



山口さん

今はまだ「大学の1ツール」という感覚が強いので、「Twitterくらい気軽につぶやけるけど、Ochatだから安心してつながれる」ような、気軽さと安全性が担保されているツールになればいいなと思います。

最後に一言お願いします。



大野さん

当初はアプリをリリースすることがチームの提案でした。もし我こそはOchatのアプリを作りたい、Ochatで起業したい、他大学に売り込みたいという人がいれば、チームメンバーはみんな喜んで歓迎します。



山口さん

情報科学科には優秀な人がたくさんいるので、アプリにしてくれたらこんなに嬉しいことはないです。



運営を担当する 情報科学科・神山先生に お話を伺いました。

授業内の提案を実現するに至った 経緯を教えてください。

実は情報科学科において、Ochatと似たような仕組みで学科用のSlackをすでに運用していました。他の先生の授業で「全学で気軽におしゃべりをしたい」という提案があったという話が出た際、「これって学科Slackの全学版では？」ということになり、学科の有志を募って見切り発車でやってみることにしました。Ochatというネーミングは、提案者の学生さんたちのアイデアが大変気に入ったのでそのままお借りしました。

現在の利用状況を教えてください。

2021年4月19日時点で、1089人の方が登録してくださっています。1学年定員が500人弱の大学であることを考えると、これはすごい数です。現在は「上級生が投稿して下級生が見る」ような内容が多いです。特にコロナ禍にて、新入生は右も左もわからない状態ゆえ、情報が瞬時に飛ぶような仕組みを整備することが重要だと考えておりますので、これは嬉しい利用のされ方です。

運営上心掛けていることは何ですか？

運営の際は、いわゆる「見る専（見るだけの人）」が楽しめるような投稿が増える仕組みを用意することを意識しています。たとえばこの思想は、**#飯テロ**という「食べたものをただ紹介するだけのチャンネル」が用意されていたり、雑談は**#雑談用**と**#超雑談用**の二種類のチャンネルが用意されていたりすることに表れていると思います。（これは運営側というよりは僕個人の信条なのですが、）人間同士は有益な情報交換をするだけでは不十分で、まず「無益な情報交換」を行うことで初めて信頼関係が作られ、その結果としてようやく有益な情報交換が活発に行われるようになると思っています。Ochatを利用し、「無益な情報交換」を沢山行い、学内に友達を増やしてくれると嬉しいです。



学生・教職員の方へ

Ochatに登録するには、過去のOchaMail (vol.565 またはvol.575) を参照するか、既に登録済みの学生や教職員に聞いてみてください。